

令和 8 年 2026 年						
日	月	火	水	木	金	土
		1 友引 二百十日 とら	2 先負 う	3 仏滅 たつ	4 大安 み	5 赤口 うま
6 先勝 ひつじ	7 友引 白露 一粒万倍日 さる	8 先負 とり	9 仏滅 重陽 いぬ	10 大安 ゐ	11 友引 二百二十日 ね	12 先負 うし
13 仏滅 三りんぼう とら	14 大安 一粒万倍日 う	15 赤口 たつ	16 先勝 み	17 友引 うま	18 先負 ひつじ	19 仏滅 一粒万倍日 さる
20 大安 彼岸入り とり	21 赤口 敬老の日 社日 いぬ	22 先勝 休日	23 友引 秋分の日 秋分 ね	24 先負 うし	25 仏滅 三りんぼう とら	26 大安 彼岸明け 一粒万倍日 う
27 赤口 たつ	28 先勝 み	29 友引 三りんぼう うま	30 先負 ひつじ			

長月

〔ながつき〕 令和 8 年 9 月

秋も深くなると日が暮れるのも
早くなり、長時間にわたって月が
見られるのでこの名があります。

発行：北海道神社庁一區教化委員会

みな人のこころもみがけちはやぶる
神のかぐみのくもる時なく
後醍醐天皇・統後拾遺集

今月のことば

みな人のこころもみがけちはやぶる
神のかぐみのくもる時なく

神の鏡の曇る時なきが如く、皆人の心も磨いて、常に曇りあらずなといふ意である。神が清明正直の徳を第一として教へられてゐるについては、人も常にさうした心を持ち得るやうに努力せねばならぬ。こゝに清浄、正直の二徳が神の本来の姿である意が知られる。すべての人は、本来、生まれたときには純真な赤子（清き明き子）であつた。それが環境によつて色々の色がついてくる。この色の中でも変な色は、ふきとり、本来の姿を見出し得るやうに磨き怠つてはならぬ。更にいへば鏡は、鑑であり、考へ見るものであるから、神の鏡を見るときは、神の心に照して反省の念を常に持つことが、自分の心の汚れを毎日拭ひ去ることになる。清浄、正直、の二字を心の守り札として生きる生き方が茲にある。

（一般財団法人神道文化会編 神道百言より抜粋）

季節のまつり

重陽 九月九日
不老長寿を願う
「重陽の節供」

陽は「生」を意味し、陽の最大数である九が二つ重なることから「重陽」と呼ばれ、九月九日は非常に縁起のよい日とされ、この日は「登高」といって高い山に登ったり、寿命をのばすといわれる菊の花を浮かべた酒を飲んで不老長寿を願いました。また、「おくんち」と呼ぶ秋の収穫を祝う氏神祭の日として、栗飯を炊き、菊酒を飲んで祝ったところから、菊節供・栗節供とも呼ばれています。

防災 二百十日・二百二十日
台風災害の多い季節

二百十日は立春から数えて二百十日目の日で、毎年九月一日頃にあたります。（今年は九月一日）この頃は稲が開花するなど、農業にとって重要な時期ですが、台風に見舞われることも多い時期です。二百二十日も同様の雑節で、八朔（八月一日）とともに、農家の三大厄日として警戒されてきました。現在のように台風の予測が出来なかった時代より、人々はこの時期になると風を鎮める風祭などを行って五穀豊穡への祈りを捧げてきました。又、九月一日は防災の日（関東大震災の日）として、自然災害に対する日々の備えを確認し、避難訓練などが行われております。

「お彼岸」に感謝の祈り

彼岸は、春分・秋分の前夜三日を含めた七日間で、今年の秋の彼岸は『九月二十日～二十六日』です。最初の日を「彼岸入り」、最後の日を「彼岸明け」、真ん中あたりの春分・秋分を「彼岸の中」（ちゅうにち）といいます。「彼岸」とは仏教用語で向こうの岸という意味で、一切の悩みを捨て去って悟りの境地に達することをいいます。この極楽浄土は西方遙か彼方にあるとされているため、太陽が真西に沈む春分・秋分にお墓参りや先祖供養を行うようになりました。

この信仰は日本独自のもので、日本古来の祖先信仰と、彼岸は「日願」でもあるため、太陽の神を信仰する神道と結びつき、秋の収穫や自然に対する感謝の祈りが祖先に感謝する気持ちにもつながって大切な行事となりました。

えいきうふへん
永久不変
人間は生きる瞬間瞬間を大切に生きること。



睡蓮

参考文献
『くらしと祭り百話』 小野迪夫（神社新報社）
『日本人のしきたり』 飯倉晴武（青春出版社）

二十四節気

白露 はくろ 七月七日

旧暦八月酉の月の正節で、秋分前の十五日目にあたります。白露はへしつゆの意で、秋気も本格的に加わり、野草に宿るしらつゆが秋のおもひきを感じさせます。

【秋分 しゅうぶん】 二十三日
旧暦八月酉の月の中気で、この日は秋の彼岸の中日で国民の祝日にも定められ、祖先をうやまい、亡くなった人の霊をしのぶ日にあてられています。またこの日は春分と同じく昼と夜の長さがほぼ等しく、この日を境にして徐々に昼が短く、夜が長くなっていきます。

六曜・選日

【六曜】
〔先勝〕…諸事急ぐことによし、午後よりわるし
〔友引〕…朝夕よし、正午わるし、葬式を忌む
〔先負〕…諸事静かなることによし、午後大吉
〔仏滅〕…万事凶、患えは長びくおそれあり
〔大安〕…何事をするのにも吉日、大吉日
〔赤口〕…諸事油断すべからず、正午のみ吉

【選日の吉凶】
〔三りんぼう〕…三隣亡日、普請始め、棟上凶日
〔三りんぼう日〕…出資・投資・購入、新規事業開始
婚姻は吉、借りる、離別凶

七十二候《9月》

秋 分 白 露

初候・草露白（くさのつゆしろし）
朝露が白く光って見える

次候・鶉鳴鳴（せきれいなく）
「子子子」とセキレイの音が響きわたる

末候・玄鳥去（つばめさる）
ツバメが南の地域へと帰っていく

初候・雷乃収声（かみなりすなわやまをさむ）
夏の間に鳴り響いた雷が収まる

次候・蟄虫坏戸（おしかくれてこきふ）
虫たちが冬ごもりの準備をはじめる

末候・水始涸（みずはじめてかる）
田の水を落として稲穂の刈り入れを始める

安産祈願 9月の戌の日
9日（水）・21日（月）

*戌の日以外でも安産祈願のご奉仕をしております。神社にお問い合わせください。

《21日 敬老の日》
多年にわたり社会に尽くしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う日です。

《23日 秋分の日》
祖先をうやまい、なくなった人々をしのぶ日です。

祝祭日には国旗を掲げましょう